診療支援局：検査・栄養部門　臨床検査

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
部門長 兼臨床検査副センター長 兼栄養管理副センター長 兼先進医療開発副センター長	花田　浩之
部門長代理	中村　雅美
主幹兼輸血・細胞治療センター	小島　義忠
主査兼輸血・細胞治療センター	米本　隆浩
主　査	石田　浩美
主　査	須合　恵美
主査兼輸血・細胞治療センター	井上　早紀
主　査	井伊　稚佳子
主査兼輸血・細胞治療センター	宮本　志保
主　査	田川　次郎
主　査	福岡　京子
主　査	坂本　秀行
主　査	山﨑　功次

＜特色と概要＞

詳細については「共同運営部門：臨床検査センター・輸血・細胞治療センター」をご覧ください。

診療支援局：検査・栄養部門　病理検査

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
主査（臨床検査技師）	中井　信子
スタッフ（臨床検査技師）	4名
事務員	1名

＜特色と概要＞

病理検査の業務は、組織診、細胞診に大別される。病変の一部を採取する生検組織診、手術によって摘出された標本の組織型の診断、病変の広がり、転移の有無、術中の切除断端の評価を行う術中迅速組織検査や、病理解剖からなっている。病理医による、最終診断（確定診断）を行うため、病理診断は、診療において重要な役割を果たしている。

大阪府がん診療拠点病院として悪性腫瘍の症例が多く、コンパニオン診断（免疫組織化学染色や外注検査）の件数が年々増加している。そのため検体DNAの良好な保存状態が重要である。病理標本の適切な管理と適切な標本の選択、質の高い標本作製が求められるため、さらに病理技術向上に努めていく。今年度の構成員は、臨床検査技師5名（うち細胞検査士4名）事務員1名、計6名で業務を行っている。

＜実績＞

今年度は、前年度に比べ、組織診断検査の件数は、内視鏡検査等の増加により、8.6％増加した。術中迅速検査（組織診、細胞診）は250件を超え、9％増加した。OSNA（直接遺伝子増幅）法によるリンパ節転移検査は、前年度に比べ横ばいである。細胞診検査は、微増した。病理解剖は、各診療科のご協力により、9件実施した。病理解剖症例を対象とした、CPC（臨床病理検討会）は、年7回開催している。定期的に行われている乳腺カンファレンスに組織像を提示し参加している。また、今年度、臨床からの要望により、検体採取場に出向き確実な病変採取を目的とした、迅速細胞診（Rapid　On-Site　Evaluation:ROSE)を開始した。

2024年度月別病理検査件数（入院・外来）　（件）

検査別＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
組織診	379	460	418	407	432	384	473	459	448	460	376	320	5,016
術中迅速組織診	9	14	16	7	12	13	14	15	15	10	14	14	153
診断のみ（借用標本）	1	1	2	4	3	3	8	4	4	6	2	3	41
OSNA法	0	4	1	9	0	5	6	1	6	6	7	3	48
迅速診断（OSNA法）	2	2	4	4	1	7	5	5	4	5	4	4	47
セルブロック法	3	0	1	0	0	2	4	0	1	5	4	1	10
細胞診（婦人科材料）	185	185	244	197	153	195	294	232	170	146	147	191	2,339
細胞診（その他材料）	178	144	161	180	183	182	183	162	161	194	166	199	2,093
術中迅速細胞診	9	9	10	9	7	11	11	13	13	17	12	15	136
病理解剖	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	2	1	9

2024年度病理外注検査件数（入院・外来）　（件）

種類別＼年	検査名	2023	2024		検査名	2023	2024
乳癌	HER-2	129	109	胃癌	RAS・BRAS	62	73
	HER-2 FISH	125	107		MSI	69	79
	PD-L1	1	2		HER-2	36	28
	オンコタイプ	6	7		HER-2 FISH	36	28
肺癌	EGFR	2	0		PD-L1	20	21
	ALK	3	0		CLDNIN 18	0	22
	ROS1	3	0		MMR	0	10
	PD－L1	26	24	頭頸部癌	PD-L1	0	5
	オンコマイン	5	7		HER-2	0	1

年 / 種類別	検査名	2023	2024		検査名	2023	2024
肺癌	Amoy	19	3	リンパ腫	EZH2	1	3
	コンパクトパネル	0	14	メラノーマ	BRAF	0	2
大腸癌	HER-2	6	13		PD-L1	0	1
	HER-2 FISH	3	0	食道癌	PD-L1	3	7
				遺伝子検査総件数		555	566

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

組織診検査件数は年間5,000件、術中迅速診断は200件を超えていることは、高度な医療が実践されていると考える。病理解剖については、9件実施した。今年度は、目標の10件には至らなかった。また、呼吸器や消化器領域において、細胞診検査による、ROSE（Rapid On-Site Evaluation）迅速細胞診の導入により、診断精度の向上、検査時間の短縮、再検査の減少に寄与した。これからも、臨床の要望に応え、業務の拡充を行い、人材の育成、技術向上を目指す。

＜認定検査士＞

細胞検査士：4名（国際細胞検査士：1名）
遺伝子分析科学認定士（初級）：1名
臨床病理同学院　二級臨床病理技術士（病理）：2名
特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任：3名
有機溶剤作業主任者：1名
化学物質管理者：1名

診療支援局：検査・栄養部門　栄養管理

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
部門長（臨床検査技師）	花田　浩之
部門長代理（管理栄養士）	遠藤　隆之
管理栄養士	8名
事務員	1名

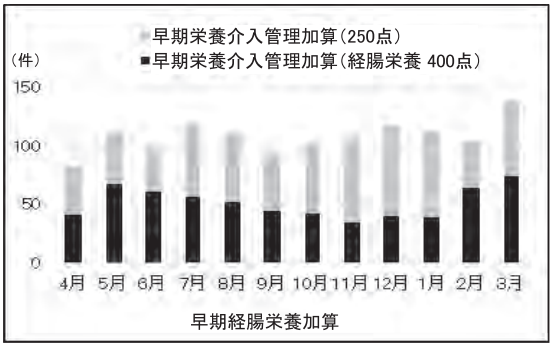
＜特色と概要＞

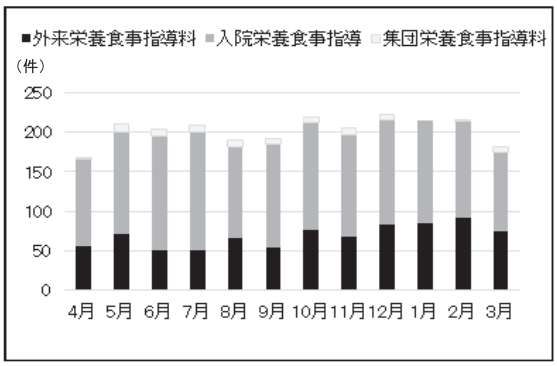
当部門は臨床検査技師1名（花田部門長）、管理栄養士9名が在籍している。患者の入院中の楽しみとして重要な位置を占める病院食について、「美味しい病院食」を目指して月一回給食委託先である株式会社エームサービスと献立会議を開いて病院食のアップデートを行い、また行事食は月1回提供している(次頁写真参照)。今年度の取り組みとしては、300円の追加料金で通常の献立メニューとは別のメニューが選択できる有料献立メニューの導入を行った。厨房施設の老朽化に対しては厨房内の側溝の修理を行った。

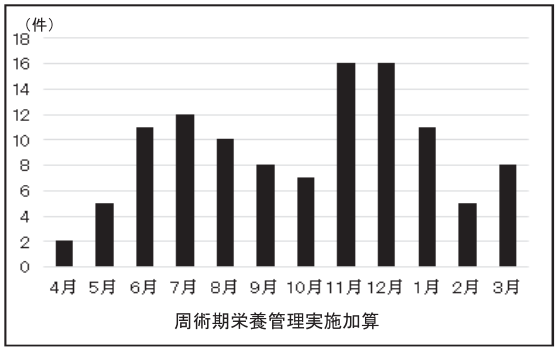
また、臨床栄養管理では、ICUにおいて早期栄養介入加算400点610件、早期栄養介入加算250点681件の算定であった。加算400点（経腸栄養加算）に関しては、5月より早期経腸栄養について循環器内科医師および心臓血管外科医師に対して勉強会を開催して啓蒙活動を行い、またICU看護師と共にICU経腸栄養プロトコールに準じた早期経腸栄養を主治医に提案する活動を行った結果、昨年度より235件増加することができた。栄養指導は外来1,010件(うち早期腎症予防指導12件)、入院1,528件と合計2,538件で、昨年度と比較し約700件の増加であった。集団栄養指導は糖尿病教室を中心に75件と昨年とほぼ同程度であった。入院栄養指導について①給食業務をスリム化し病棟業務時間を増加、②管理栄養士の病棟担当制を徹底して各診療科医師および各病棟看護師と担当管理栄養士との関係性を強化、③全診療科において医師の包括的指示のもと管理栄養士が適時栄養指導の実施を行った結果、件数増加に繋がった。周術期栄養管理実施加算は上部消化管だけでなく他の消化器疾患も介入するようになったこともあり、件数は111件と昨年度と比較し約100件増加した。

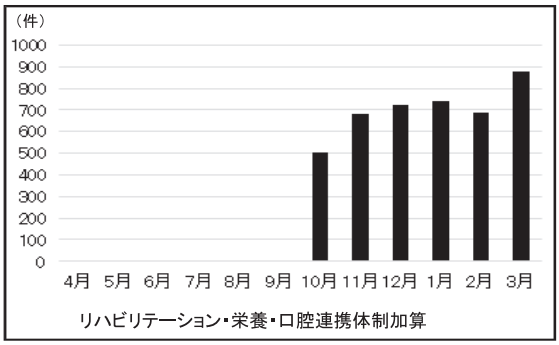
新規の取り組みとして、今年度の診療報酬改定に伴い8階海側病棟（主診療科：外科）にてリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算を10月より開始し、4,440件であった。また、栄養情報連携料（入院患者の栄養管理に関する情報を転院先の病院や施設と情報共有した場合に算定）を開始し、103件であった。

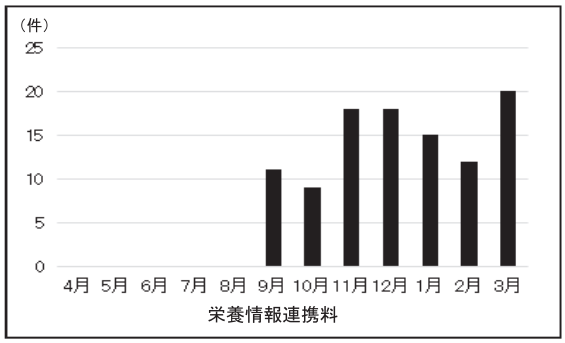
＜実績＞











＜今年度の反省と来年度への抱負＞

今年度は新規にリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算、栄養情報連携料を導入した。また、早期経腸栄養加算、栄養指導の運用について見直しを行った。その結果、診療報酬の増加に繋がった。

来年度は一人増員となり、EICUにて早期経腸栄養加算導入を取り組む予定である。

行事食

有料献立メニュー